

製品名: UCH-L1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19591**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	UCHL1
別名	UCHL1; Ubiquitin carboxyl-terminal hydrolase isozyme L1; UCH-L1; Neuron cytoplasmic protein 9.5; PGP 9.5; PGP9.5; Ubiquitin thioesterase L1
遺伝子 ID	7345.0
SwissProt ID	P09936
免疫原	抗血清はヒト UCHL1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 31-80

背景

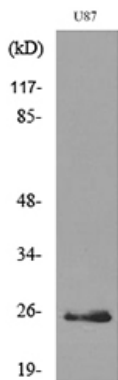
この遺伝子によってコードされるタンパク質はペプチダーゼ C12 ファミリーに属します。この酵素はチオールプロテアーゼであり、

ユビキチンのC末端グリシンにおけるペプチド結合を加水分解します。この遺伝子は、ニューロンおよびびまん性神経内分泌系の細胞で特異的に発現します。この遺伝子の変異はパーキンソン病に関連している可能性があります。[RefSeq 提供、2009年9月],触媒活性:ユビキチン(細胞内標的シグナルとしてタンパク質に付着する76残基のタンパク質)のC末端グリシンによって形成されるエステル、チオエステル、アミド、ペプチド、イソペプチド結合のチオール依存性加水分解。疾患:アルツハイマー病(AD)およびパーキンソン病(PD)患者の脳では、Met-1、Met-6、Met-12、Met-124、およびMet-179のメチオニンスルホキンドへの酸化、およびCys-220のシステインスルホン酸への酸化が観察されています。ADにおいて、UCHL1は神経原線維変化に関連することが判明した。機能:ユビキチン前駆体とユビキチン化タンパク質の両方のプロセッシングに関与するユビキチンタンパク質加水分解酵素。この酵素はチオールプロテアーゼであり、ユビキチンのC末端グリシンにあるペプチド結合を認識して加水分解する。また、遊離モノユビキチンにも結合し、リソソーム内での分解を防ぐ可能性がある。ホモ二量体はATP非依存性ユビキチンリガーゼ活性を有する可能性がある。その他:UCHL3とは異なり、NEDD8のC末端グリシンにあるペプチド結合を加水分解しない。オンライン情報:ユビキチンカルボキシ末端加水分解酵素L1 エントリー,PTM: O-グリコシル化。類似性:ペプチダーゼC12ファミリーに属する。サブユニット:ホモ二量体。SNCAと相互作用する(類似性による)。COPS5と相互作用する。組織特異性:大脳新皮質全体の神経細胞体および突起に認められる(タンパク質レベル)。びまん性神経内分泌系の神経細胞および細胞、ならびにそれらの腫瘍に発現する。卵巣に弱い発現を示す。

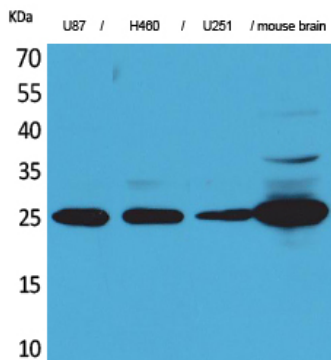
研究分野

パーキンソン病;

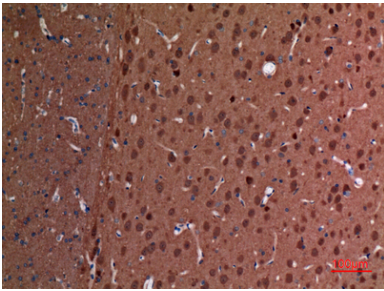
画像データ



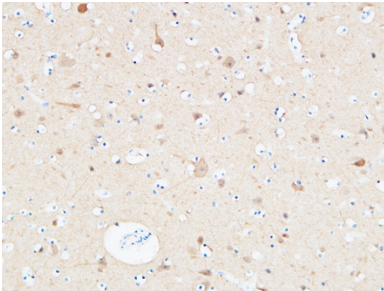
UCHL1 抗体を使用した U87 細胞の溶解液のウェスタン ブロット分析。



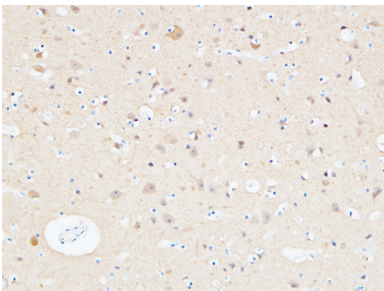
UCH-L1 ポリクローナル抗体を用いた U87、H460、U251 マウス脳細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。



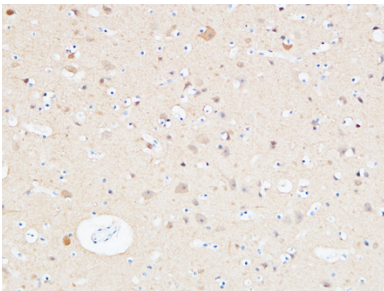
パラフィン包埋ラット脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



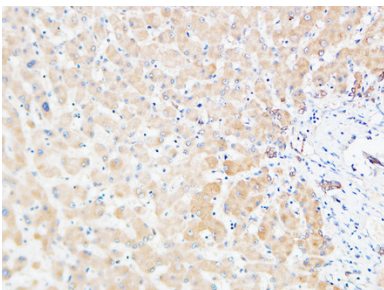
パラフィン包埋ヒト大脳皮質の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晩)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



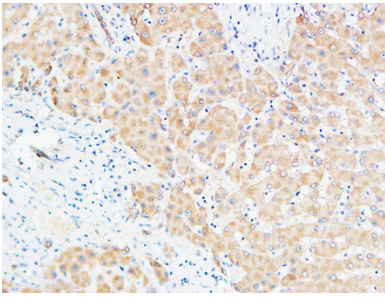
パラフィン包埋ヒト大脳皮質の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晩)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



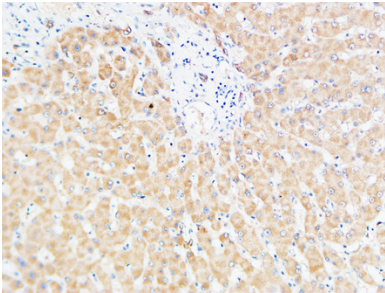
パラフィン包埋ヒト大脳皮質の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晩)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晩)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。